

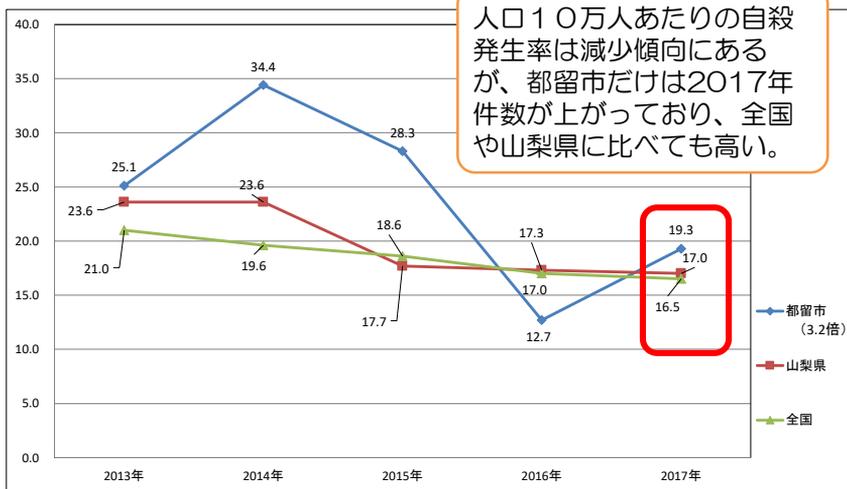
都留市セーフコミュニティ

心の健康 対策委員会



報告者 委員長 重原達也

委員会設立の背景 ～全国、県、市の自殺発生率推移～



図表1 人口10万人あたりの自殺発生率 (2013～2017)

出典：人口動態統計

委員会設立の背景 ～年齢層別の外傷による死亡原因～

図表2 外傷による死亡 年齢層別発生状況（2012～2017年の合計） 単位：人

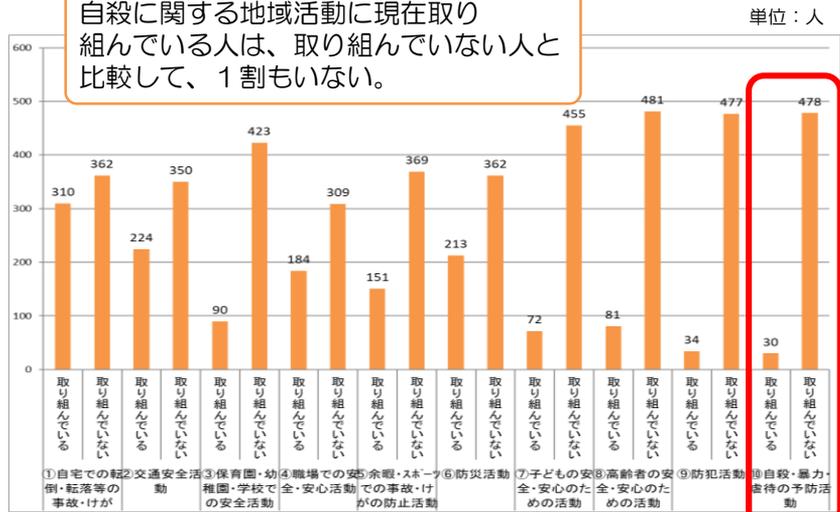
| 年齢 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|--------|-----------------------|--|----------------------------|----------------------------------|--|
| 0～9歳 | | | | | |
| 10～19歳 | 交通事故（1人） 転倒・転落（1人） | | | | |
| 20～29歳 | 自殺（6人） | 交通事故（2人） | 不慮の溺死及び溺水（1人） | | |
| 30～39歳 | 自殺（3人） | 不慮の溺死及び溺水（1人） その他の外因（1人） | | | |
| 40～49歳 | 自殺（8人） | 交通事故（1人） 有害物質による不慮の中毒 及び曝露（1人） その他不慮の事故（1人） その他の外因（1人） | | | |
| 50～59歳 | 自殺（7人） | 交通事故（2人） 転倒・転落（2人） | 不慮の窒息（1人） その他不慮の事故（1人） | | |
| 60～69歳 | 自殺（9人） | 不慮の窒息（3人） その他不慮の事故（3人） | 交通事故（2人） | 不慮の溺死及び溺水（1人） その他の外因（1人） | |
| 70～79歳 | 不慮の溺死及び溺水（4人） | 交通事故（3人） その他不慮の事故（3人） 自殺（3人） | 煙、火及び火炎への曝露 （2人） | 不慮の窒息（1人） その他の外因（1人） | |
| 80～89歳 | 転倒・転落（9人） | 不慮の溺死及び溺水（8人） | 不慮の窒息（6人） | 自殺（5人） | 不慮の溺死及び溺水（1人） 煙、火及び火炎への曝露（1人） その他不慮の事故（1人） その他の外因（1人） |
| 90～99歳 | 転倒・転落（6人） | 不慮の窒息（3人） | その他不慮の事故（2人） その他の外因（2人） | 不慮の溺死及び溺水（1人） 煙、火及び火炎への曝露（1人） | 自殺（1人） |

20代から60代までの死亡原因は『自殺』が1位を占め、特に、20代、40代は外傷による死亡要因の66%を『自殺』が占める。

出典：人口動態統計 2

委員会設立の背景 ～自殺等の予防活動の現在の取り組み～

自殺に関する地域活動に現在取り組んでいる人は、取り組んでいない人と比較して、1割もいない。



図表3 安全・安心のための取り組みをしているか

出典：安全・安心なまちづくりアンケート（都留市役所 地域環境課）

委員会設立の背景 ～自殺者の特徴や背景分析～

図表4 自殺者の特徴（区分）と背景にある主な自殺の危機経路

| 都留市の上位5区分 | 全国的な背景にある主な自殺の危機経路のパターン | 都留市 | |
|-------------------------|--|---------|-------|
| | | 自殺者数（人） | 割合（％） |
| 1位 男性40～59歳 無職・同居 | 失業→生活苦→借金+家族間の不和→ うつ状態 →自殺 | 5 | 13.2% |
| 2位 男性60歳以上 有職・同居 | 【労働者】 身体疾患+介護疲れ→アルコール依存→ うつ状態 →自殺 【自営業者】 事業不振→借金+介護疲れ→ うつ状態 →自殺 | 5 | 13.2% |
| 3位 女性60歳以上 無職・同居 | 身体疾患→病苦→ うつ状態 →自殺 | 5 | 13.2% |
| 4位 男性20～39歳 有職・同居 | 職場の人間関係・仕事の悩み（ブラック企業）+パワハラ→過労→ うつ状態 →自殺 | 3 | 7.9% |
| 5位 男性40～59歳 有職・同居 | 配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→ うつ状態 →自殺 | 3 | 7.9% |

出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

すべての危機経路に『うつ状態』が関与している。

4

委員会設立の背景 ～まとめ～

人口10万人あたりの自殺発生率は減少傾向にあるが、2017年は上がっており、全国や山梨県に比べると**都留市は高い**。

20代から60代までの死亡原因は、『自殺』が1位。
特に、**20代・40代**の死亡要因の**6割以上**が自殺である。

自殺に関する地域活動に現在取り組んでいる人は、**1割に満たない**。

都留市の上位5つのケースでは、すべての危機経路に『うつ状態』が関与している。

自殺を減らすためにも、直結するケースの多いうつ対策などの心の健康を考えなければならない。

5

心の健康対策委員会の構成



これまでの経過

【セーフコミュニティ合同委員会】 第1回2018年10月25日 ～ 第6回2019年6月26日

- 第7回～第20回まで、計14回の委員会を開催
- 課題を模索。主観及び客観的データから、
どうして自殺に至ってしまうのかの議論・検討
 - 浮かび上がった問題点から重点課題4つの抽出
 - 現在までの取組の状況を確認
 - 具体的な対策を検討

【秩父市事前審査視察】
2019年10月7日（月）
6名参加

【都留市経営者連絡協議会、都留文科大学の学生に対しアンケートを実施】
経営者連絡協議会への説明（委員長、委員、事務局 4名出席）
都留文科大学学生自治会へのアンケート依頼



主観的視点から問題点を共有

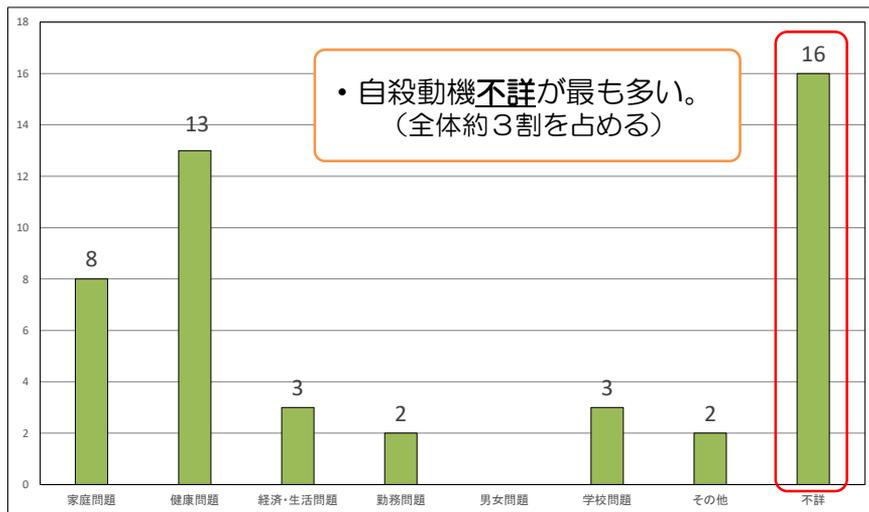
| 主観的視点 | 問題点 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ◆心の病気がわからない (どんな症状?どうなる?) ◆心を病んでいる人に対してどのように声をかけていいかわからない ◆家族や友人がSOSに気づかない | 誰もが 心の病気に気づかない 心の病気を知らない |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆自分でSOSが出せない、出さない ◆家族や周囲に言えない ◆集まれる機会、話をする時間、相手がいない ◆病院へ行くことに抵抗がある | 心の病気を抱えている人が 相談できない人が多い 心の病気に気づかれたくない人が多い |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆近くに頼れる大人がいない ◆学校とアパートのみ、友達がない人もいる ◆学生も日々ストレスを抱えている ◆学生の自殺未遂も多いと聞く | 20代(若者)の 自殺が多い 心を病む人が多い |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆チームで結果を求められて、チーム(職場)につぶされる ◆職場での人間関係から、うつになる人がいる | 40代~60代(働き盛り世代)の 自殺が多い 心を病む人が多い |

8

客観的視点から見た問題 ~自殺動機~

図表5 自殺の動機 理由別状況 (2013~2017年の合計)

単位:人

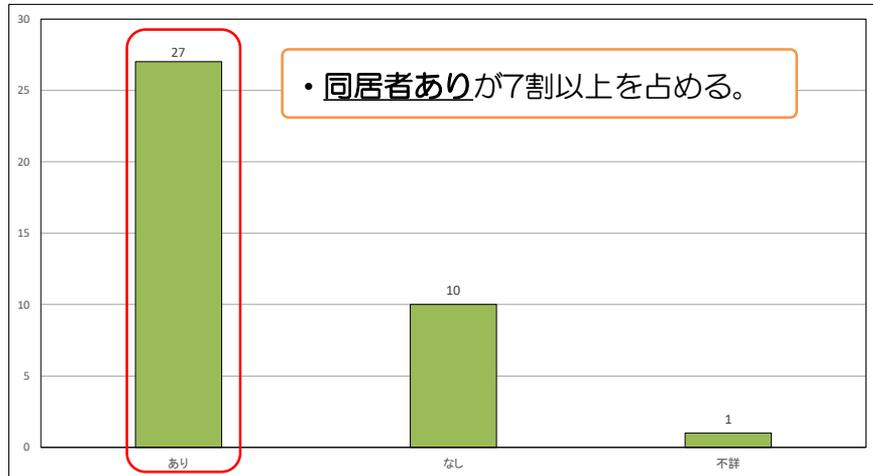


出典:人口動態統計

9

客観的視点から見た問題 ～同居者の有無～

図表6 自殺者の同居者の有無（2013～2017年の合計）



・同居者ありが7割以上を占める。

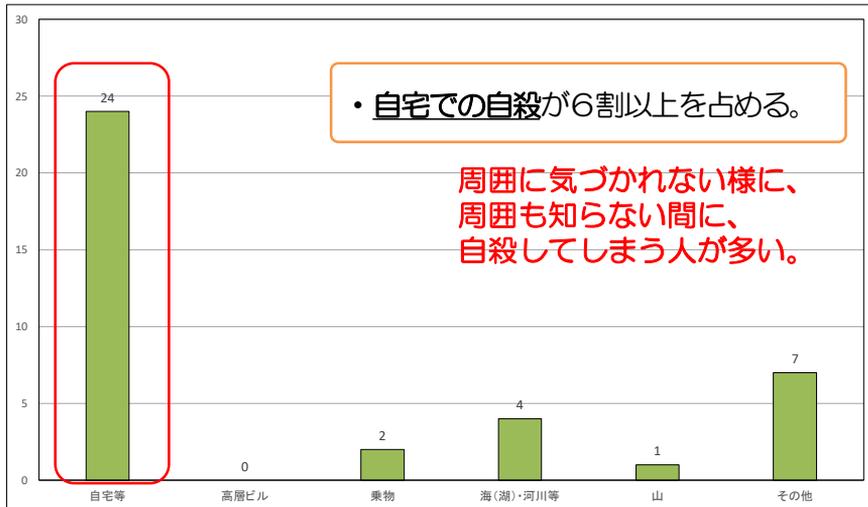
単位：人
出典：人口動態統計

10

客観的視点から見た問題 ～自殺場所～

図表7 自殺の場所別状況（2013～2017年の合計）

単位：人



・自宅での自殺が6割以上を占める。

周囲に気づかれない様に、
周囲も知らない間に、
自殺してしまう人が多い。

出典：人口動態統計

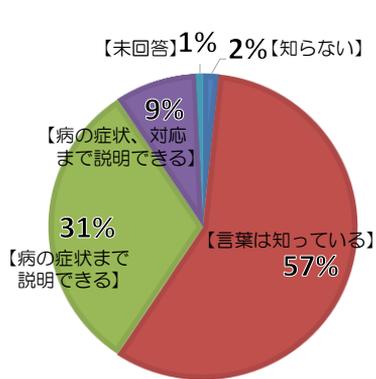
11

客観的視点から見た問題 ～うつ病の認知度～

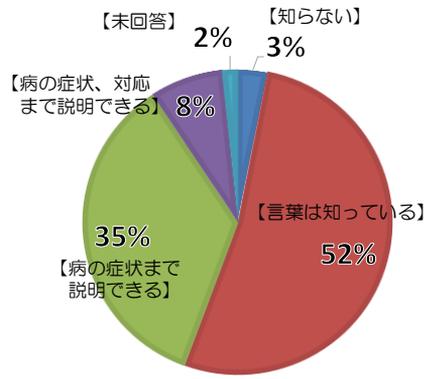
心の健康対策委員会実施アンケート

【うつ病について知っていますか？】

図表8 都留文科大学学生



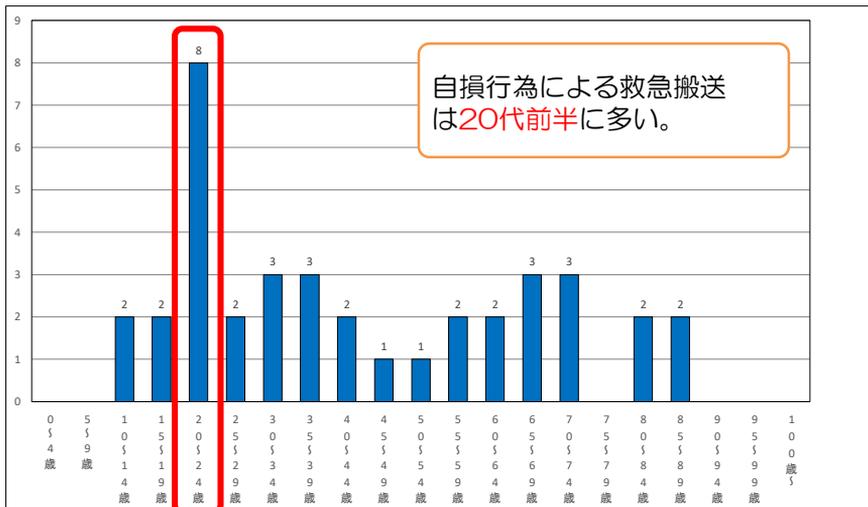
図表9 都留市経営者連絡協議会加盟事業所社員



・5割がうつ病という言葉は知っているが、対応ができる人は1割に満たない

客観的視点から見た問題 ～自傷行為による救急搬送人数～

図表10 自傷行為による救急搬送人員の年齢層別状況（2013～2017年の合計） 単位：人



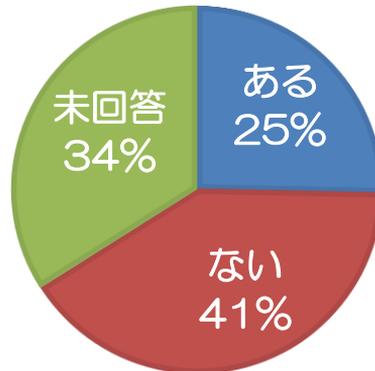
自傷行為による救急搬送は20代前半に多い。

客観的視点から見た問題

心の健康対策委員会実施アンケート

【悩みやストレスで死にたいと思ったことはありますか？】

図表11 都留文科大学学生



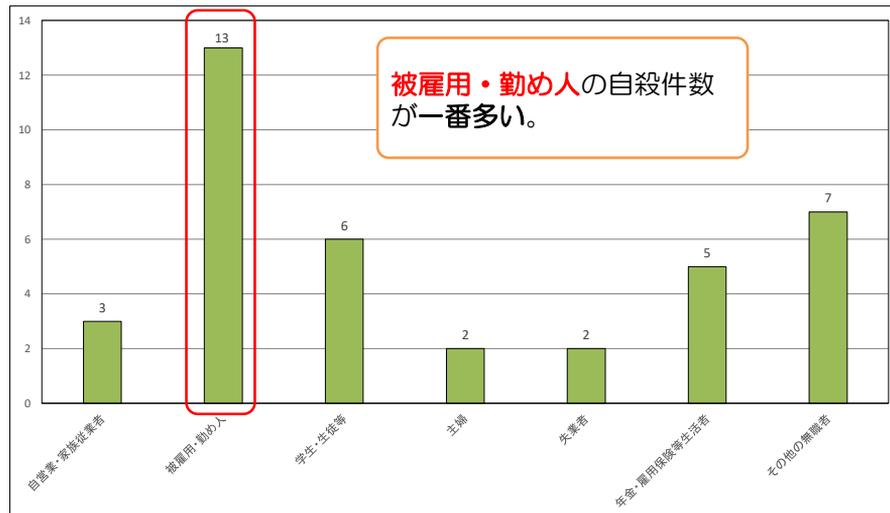
・何らかの理由で25%の学生が死を考えた経験がある。

14

客観的視点から見た問題

図表12 自殺の職業別状況（2013～2017年の合計）

単位：人



被雇用・勤め人の自殺件数が一番多い。

出典：人口動態統計

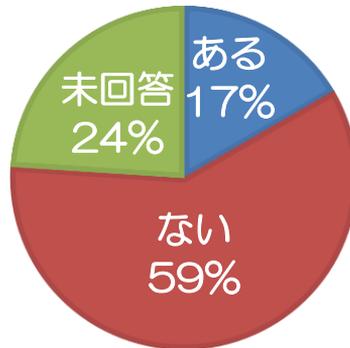
15

客観的視点から見た問題

心の健康対策委員会実施アンケート

【悩みやストレスで死にたいと思ったことはありますか？】

図表13 都留市経営者連絡協議会加盟事業所社員



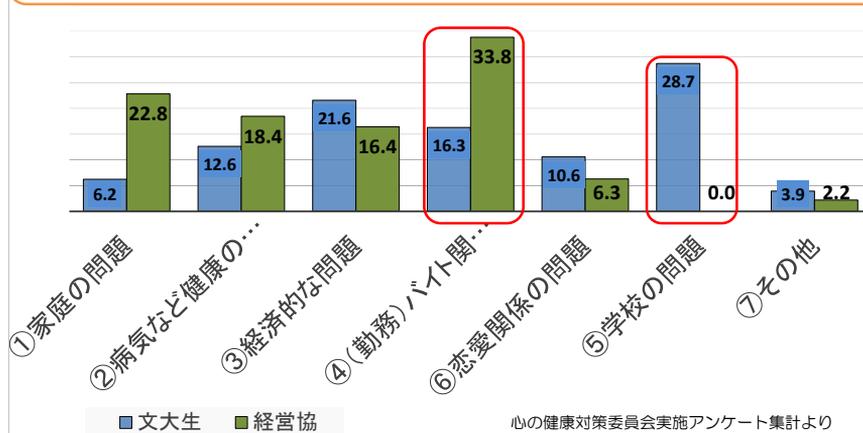
・17%の労働者が死を考えた経験がある。

16

客観的視点から見た問題

～心の悩みとストレスの原因（学生と社会人の比較）～

- ・心の悩みとストレスの原因は、
- | 若者 | 1位 | 学校の問題 | 働き盛り | 1位 | 勤務の問題 |
|----|----|----------|------|----|-------|
| | 2位 | 経済的な問題 | | 2位 | 家庭の問題 |
| | 3位 | バイト関係の問題 | | 3位 | 健康の問題 |
- となっている。



心の健康対策委員会実施アンケート集計より

17

問題点と課題の整理

客観的データ

- 図表2 外傷による死亡 年齢層別発生状況
- 図表4 自殺者の特徴や背景
- 図表5 自殺の動機
- 図表6 自殺の同居者の有無
- 図表7 自殺の場所別状況
- 図表8 うつ病認知度（学生）
- 図表9 うつ病認知度（労働者）
- 図表10 自損行為による救急搬送
- 図表11 死にたいと思ったことあるか（学生）
- 図表12 自殺の職業別状況
- 図表13 死にたいと思ったことあるか（労働者）

主観的問題点

- 心の病気を知らない
気づかない
- 相談できない
気づかれたくない
- 若者で自殺、
心を病む者が多い
- 働き盛り世代で
自殺、心を病む
者が多い

課題

- 心の病気について知っている人を増やす
- 心の病気を抱えている人が容易に相談できるようにする。また、相談したいと思えるようにする。
- 若者（20代）の自殺を減らすため、心を病む若者（20代）を減らす。
- 働き盛り世代（40～60代）の自殺者を減らすため、心を病む働き盛り世代（40～60代）を減らす。

課題に対するレベル別の対策

| | 国レベル | 県・市レベル | 地域レベル |
|-------|---|---|--|
| 環境改善 | <ul style="list-style-type: none"> 県、市への交付金 | | <p>若者応援隊の結成と支援 (委員会独自の活動)</p> |
| 規則・罰則 | <ul style="list-style-type: none"> 自殺対策基本法 自殺総合対策大綱 | <ul style="list-style-type: none"> 山梨県地域自殺対策推進計画 都留市地域自殺対策推進計画 | |
| 教育・啓発 | <ul style="list-style-type: none"> 自殺予防週間、自殺対策強化月間の設定 | <ul style="list-style-type: none"> 山梨県自殺防止センターによるゲートキーパー養成支援 各種啓発チラシの作成 ゲートキーパー養成講座の実施 <p>啓発活動の展開（市と連携）</p> <p>ゲートキーパーの育成（市との連携）</p> | <ul style="list-style-type: none"> 傾聴ボランティアの実施 ホットスポットの見回り <p>優良企業の認定 (委員会独自の活動)</p> |

はセーフコミュニティ活動として取り組んでいく活動

課題に対する今後の対策

課題①

誰もが心の病気に気づかない
心の病気を知らない

課題②

心の病気を抱えている人が
相談できない人が多い
心の病気に気づかれたくない
人が多い

課題③

20代（若者）の自殺が多い
心を病む人が多い

課題④

40～60代（働き盛り世代）
の自殺が多い
心を病む人が多い

取り組み①

啓発活動の展開

取り組み②

ゲートキーパー育成

取り組み③

若者応援隊の結成と支援

取り組み④

優良企業の認定

20

取り組み① 啓発活動の展開

| | | |
|--------------------|--|---|
| 課題 | ①心の病気について知っている人を増やす ②心の病気を抱えている人が容易に相談できるようにする。また、相談したいと思えるようにする。 ③若者の自殺者を減らすため、心を病む若者を減らす。 ④働き盛り世代の自殺者を減らすため、心を病む働き盛り世代を減らす。 | |
| 方向性 | 心の健康を改善、維持するための啓発 | |
| 内容等 | 【内容】 | 情報周知の発信。CATVやSNSを活用した動画の配信 メッセージカードを作成し、公共施設等のトイレに設置 |
| | 【対象】 | 市 民 |
| | 【実施者】 | 都留市、山梨県、ハローワークなどの行政機関 むつみの家などの地域活動団体 心の健康対策委員会 |
| (短期評価) 意識・知識の変化 | 【指標】 知識を得たと思う人数 | 【測定】 市民へのアンケート調査 |
| (中期評価) 態度・行動の変化 | 【指標】 自殺予防活動に参加した人 | 【測定】 市民へのアンケート調査 |
| (長期評価) 状態・状況の変化 | 【指標】 知識を持った人を増やす | 【測定】 市民へのアンケート調査 |

21

取り組み① 啓発活動の展開

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| これまでの取組 | 委員の中で相談窓口について議論を行い、メッセージカードをイメージ化した。 |
| 対策委員会の関り方 | 今後広報等で公募し、選考について委員が行っていく。 |

| 指標 | 内容 | 測定方法 | 2018 | 2020 |
|---------------|--------------|-------------|------|--|
| 意識・知識 (短期) | 知識を得たと思う人数 | 市民へのアンケート調査 | — | 健康増進計画・食育推進計画の中間評価(令和3年度)に向けて令和2年度に「休養・こころについて」の分野において、睡眠とストレス、うつ病への理解についての市民アンケート調査を実施。 |
| 態度・行動 (中期) | 自殺予防活動に参加した人 | 市民へのアンケート調査 | — | 2023年度の安心・安全(セーフコミュニティ)のアンケートで参加した方的人数を調査実施予定。 |
| 状況 (長期) | 知識を持った人を増やす | 市民へのアンケート調査 | — | — |

22

取り組み① 啓発活動の展開

- ・CATVやSNSを活用して情報の配信・発信
- ・メッセージカードを作成し、トイレなどの人目につきやすい場所に設置

チラシの配布・カードの作成
【イメージ図 ポスター】



【イメージ図 カード】



知識を得たと思う人や自殺予防活動に
参加した人を把握

↓
知識を持った人を増やしていく

23

取り組み② ゲートキーパーの育成

| | | |
|--------------------|--|----------------------------------|
| 課題 | ①心の病気について知っている人を増やす ②心の病気を抱えている人が容易に相談できるようにする。また、相談したいと思えるようにする。 ③若者の自殺者を減らすため、心を病む若者を減らす。 ④働き盛り世代の自殺者を減らすため、心を病む働き盛り世代を減らす。 | |
| 方向性 | 心の健康を改善、維持するための啓発 | |
| 内容等 | 【内容】 | 心の病を抱える人と接点の多い人を意識したゲートキーパー講座の実施 |
| | 【対象】 | 都留市民（企業や学生、薬局等） |
| | 【実施者】 | 都留市 山梨県 心の健康対策委員会 |
| （短期評価） 意識・知識の変化 | 【指標】 養成講座参加者数 参加者の得た知識の内容 | 【測定】 ゲートキーパーへ事後アンケート調査 |
| （中期評価） 態度・行動の変化 | 【指標】 ゲートキーパーとして活動した人（応援隊）の数 | 【測定】 ゲートキーパーへ事後アンケート調査 |
| （長期評価） 状態・状況の変化 | 【指標】 相談対応ができる人数 自殺者の減少 | 【測定】 人口動態統計 |

24

取り組み② ゲートキーパーの育成

| | | | | |
|-----------|--|-------------------|---|---|
| これまでの取組 | ・ゲートキーパー養成講座を令和元年度は2回開催しました。 ・令和2年度には（取組4と関連して）都留市経営者連絡協議会の会員を対象に、ゲートキーパー養成講座を1回開催しました。アンケート結果の分析を情報提供した。 | | | |
| 対策委員会の関り方 | ・講座の対象者について検討。市へなげかける。 ・防災対策委員会と避難所におけるメンタルヘルスケアについて、研修会等で、啓発活動を一緒にやっていくことを検討。 ・交通安全委員会との連携については、働き盛り世代を共通の対象者として、啓発活動を行っていくことを検討。 | | | |
| 指標 | 内容 | 測定方法 | 2018 | 2020 |
| 意識・知識（短期） | ・養成講座参加者数 ・参加者の得た知識の内容 | ゲートキーパーへ事後アンケート調査 | — | 市職員・介護事業所職員対象にゲートキーパー養成講座を実施（2019） 市職員参加31名、介護事業所職員参加18名 対象者を委員会で検討し、都留市経営者連絡協議会加盟事業所の社員の皆様にアンケートを実施した結果をもとに、ゲートキーパー養成講座を経営協の方を対象に令和3年3月実施（2020）。 |
| 態度・行動（中期） | ゲートキーパーとして活動した人（応援隊）の数 | ゲートキーパーへ事後アンケート調査 | — | — |
| 状況（長期） | ・相談対応ができる人が増えたか ・自殺者の減少 | 人口動態統計 | 人口10万人あたりの自殺発生率は減少傾向にあるが、都留市は2017年に19.3%と前年度の12.7%より上がっており、全国や山梨県に比べても高い。 | 人口10万人あたりの自殺発生率で、2018年都留市は16.2%（5人）と2019年は0%（0人） |

25

取り組み② ゲートキーパーの育成

受講対象者の選定の際に市に提案

市職員



企業（事業所）



企業（都留市経営協加盟店）



知識が習得できたか、活動しているかをアンケート調査により実施



相談対応できる人の増加

26

取り組み③ 若者応援隊の結成と支援

| | | |
|--------------------|---------------------------|--|
| 課題 | ③若者の自殺者を減らすため、心を病む若者を減らす。 | |
| 方向性 | 心の健康を改善、維持するための環境整備 | |
| 内容等 | 【内容】 | サポート集団『若者応援隊』の結成と支援により、若者の不安解消の場（機会）をつくる |
| | 【対象】 | 10代・20代の住民 |
| | 【実施者】 | 若者応援隊 心の健康対策委員会 |
| （短期評価） 意識・知識の変化 | 【指標】 説明会や講演会、訪問での周知回数 | 【測定】 |
| （中期評価） 態度・行動の変化 | 【指標】 応援隊が受けた相談等の件数 | 【測定】 応援隊へのアンケート調査 |
| （長期評価） 状態・状況の変化 | 【指標】 10代・20代の自殺者の減少 | 【測定】 人口動態統計 |

27

取り組み③ 若者応援隊の結成と支援

これまでの取組

- ・都留文科大学の学生の実態を把握するため、アンケート調査を実施。
- ・「コロナ禍で学生の悩みが増えているのではないかと委員会において意見が上がり、実態把握のため大学へ聞き取り調査を実施。
- ・防犯対策委員会の「学生見守りの家」と連携してできるかの検討

対策委員会の関り方

- ・講座の対象者について検討。市へなげかける。

| 指標 | 内容 | 測定方法 | 2018 | 2020 |
|---------------|----------------|------------------|---|---|
| 意識・知識 (短期) | 説明会や講演会、訪問での周知 | 説明会や講演会、訪問での周知回数 | — | 大学生のアンケートを大学側と共有。大学での学生の悩みや大学の学生に対するかかわりを共有 |
| 態度・行動 (中期) | 応援隊が受けた相談等の件数 | 応援隊へのアンケート調査 | — | — |
| 状況 (長期) | 10代・20代の自殺者の減少 | 人口動態統計 | 人口10万人あたりの自殺発生率は減少傾向にあるが、都留市は2017年に19.3%と前年度の12.7%より上がっており、全国や山梨県に比べても高い。 | 人口10万人あたりの自殺発生率で、2018年都留市は16.2%(5人)と2019年は0%(0人)となっている。 |

28

取り組み③ 若者の状況把握

委員会において「コロナ禍で学生の悩みが増えているのではないかと意見が上がり、実態把握のため大学へ聞き取り調査を実施



学生の実態(大学職員から)

- ・なんとなく疲れていたり、気候によって体調崩す学生がいる。
- ・ひとりになりたい学生、孤立した学生、同世代の対人関係が苦手な学生等がいる等 の実態が判明



- ・逃げ場や居場所への、つなぎ役が必要
- ・縦の関係ならうまくいくこともあるので、地域の人々とつながる橋渡しも必要(学生と地域のマッチング)



29

取り組み③ 若者の状況把握

委員によるキャンパスの見学



若者応援隊を大学だけではなく、
市全体に普及していく



若者応援隊が受けた相談件数が増え
自殺者数が減少する

30

取り組み④ 優良企業の認定

| | | |
|--------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 課題 | ④働き盛り世代の自殺者を減らすため、心を病む働き盛り世代を減らす。 | |
| 方向性 | 心の健康を改善、維持するための環境整備 | |
| 内容等 | 【内容】 | 心の健康対策に取り組む優良企業の認定 |
| | 【対象】 | 市内企業（事業所） |
| | 【実施者】 | 心の健康対策委員会 |
| （短期評価） 意識・知識の変化 | 【指標】 説明会や講演会等での周知回数 | 【測定】 説明会や講演会等の開催回数 周知活動を行った企業数 |
| （中期評価） 態度・行動の変化 | 【指標】 認定企業（事業所）数 | 【測定】 認定（委員会独自基準による） |
| （長期評価） 状態・状況の変化 | 【指標】 自殺者の減少 | 【測定】 人口動態統計 |

31

取り組み④ 優良企業の認定

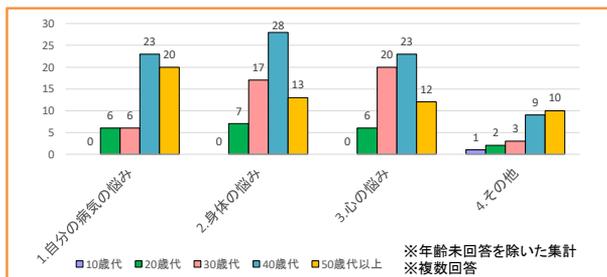
| これまでの取組 | <ul style="list-style-type: none"> 経営者の声から、企業に勤める方の実態を知る必要がある、ということで、都留市経営者連絡協議会加盟事業所社員の実態調査を実施。 結果を経営者に知ってもらう必要があると考え、経営協の会議にて結果の報告を実施。 | | | |
|-----------|--|----------------|---|--|
| 対策委員会の関り方 | <ul style="list-style-type: none"> 都留市経営者連絡協議会への働きかけ アンケートの結果を都留市経営者連絡協議会の会議にて報告。 | | | |
| 指標 | 内容 | 測定方法 | 2018 | 2020 |
| 意識・知識(短期) | 説明会や講演会等での周知 | 説明会や講演会等での周知回数 | — | 都留市経営者連絡協議会加盟事業所社員にアンケートを実施(2019)。2020年結果を経営者連絡協議会へフィードバックした。その際、ゲートキーパー養成講座への従業員の研修について理解を得た。(取組2に関連して) |
| 態度・行動(中期) | 企業(事業所)の認定(委員会独自基準による)を行う。 | 認定企業(事業所)数 | — | 委員会の中で資料等を集め、優良企業の基準について検討を重ねている。 |
| 状況(長期) | 自殺者の減少 | 人口動態統計 | 人口10万人あたりの自殺発生率は減少傾向にあるが、都留市は2017年に19.3%と前年度の12.7%より上がっており、全国や山梨県に比べても高い。 | 人口10万人あたりの自殺発生率で、2018年都留市は16.2%(5人)と2019年は0%(0人)となっている。 |

32

取り組み④ 優良企業の認定

経営協連絡協議会へ心の健康対策委員会実施アンケートを依頼

悩みやストレスの原因(病気などの健康問題の内訳)



【経営者の声】
メンタルヘルスの問題に悩んでいる人
出勤できない人がいる

経営協・青年会議所に
結果をフィードバックした

ストレスチェック等を実施している企業を認定する

心を病む働き世代が減る

33

「セーフコミュニティ」活動を通しての気づき

委員さんや関係者の話を聞くことで、様々なアイデアがあることを知った。

多くの人がストレスや悩みを抱えていることを実感した。

私たちが知る「死」を考える人間はごく一部であり、思っている以上に「死」を考えたことがある人間が多い。

自分自身、心の病の対策は、それぞれの企業や学校等が単体で行う対策と考えていたが、行政が企業や学校等と連携して行う対策である。

うつから自殺につながることへの意識があまりないように感じたため、普及啓発の大切さに気づいた。

委員さんから、地域で既に活躍している人々がいることを知った。連携が取れるといいなと思った。

対策を広めていくことの難しさを感じました。

34

「セーフコミュニティ」活動を通しての気づき

相談しない理由で「相談相手がいない」「相談しづらい」等答えた人がいたが、「一人じゃないよ」というメッセージを届けたいと思った。

家族や友人など身近な人の中に悩みやストレスを抱えて苦しんでいる人がいると答えた人が、文大生にも経営教にも半数いた。多くの人にゲートキーパーになっていただく必要があると感じた。

私たちの取り組みを、ひとりひとりに届けたい。

日頃出会わない職種の方や学生さんと共通の話題(課題)で話ができることが大切だと感じた。

一つの目標に継続的に取り組んでいることが重要。きつと成果があると信じている。

自殺が身近な問題としてとらえられていない。

35

①啓発活動 進捗状況と今後の活動

1

- ・情報の配信、発信を行うための方法や具体的なポスターやメッセージカードの内容と設置場所を検討。

2

- ・ポスターやメッセージカードのデザインを公募する。
- ・大学内HPと相談機関のHPとのリンクを検討。

3

- ・採用者には景品を授与する。
- ・市内の大学へ依頼する。

4

- ・ポスターやメッセージカードを作成する。
- ・Web上での相談窓口の周知を行う。

5

- ・ポスターやメッセージカードをトイレなど、手に取りやすい場所に設置するため、設置場所への依頼をする。

36

②ゲートキーパーの育成 進捗状況と今後の活動

1

- ・対象者を選定し行政へ提案する。

2

- ・ゲートキーパーについてチラシを作成し周知する。

3

- ・ゲートキーパー養成講座の参加者を募集する。

4

- ・ゲートキーパー養成講座の開催。

5

- ・ゲートキーパーの活動を通して、若者応援隊や企業内で働く人へのサポーターとしても活躍する。

37

③若者応援隊の結成と支援 進捗状況と今後の活動

1

- 都留文科大学の学生へアンケートを実施する。

2

- 都留文科大学の保健センターへ聞き取りを行った。

3

- 若者のサポーターを若者応援隊として具体的な位置づけを検討して見える化する。

4

- 若者応援隊を周知する。

5

- 若者応援隊の結成をし、応援隊の活動を支援する。

38

④優良企業の認定 進捗状況と今後の活動

1

- 経営協の加入企業へのアンケートを実施する。

2

- アンケート結果をフィードバックする。

3

- 優良企業の具体的な基準内容を検討する。

4

- 優良企業を周知し、募集する。

5

- 優良企業の認定をする。

39



ご清聴 ありがとうございます

